

令和 6 年度 県立鹿島特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆元気に楽しく学べる学校 ◆一人一人がよさを発揮できる学校 ◆保護者、地域とともにある学校			
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況	
○全教員が授業研究を行い、三つの指標での目標・評価の設定をして授業を展開することができた。単元計画を検討し授業改善を推進していく。 ○安全点検、様々な避難訓練、研修会や講習会、いじめ早期対策チェックリスト等により安心安全な教育環境の徹底を図った。ヒヤリハット事例の報告、事案のシミュレーション研修の実施等による共通理解と安全対策の見直しが必要である。	深い学びにつながる授業改善の推進	①育成を目指す資質・能力（三つの柱）を踏まえた個別の指導計画の作成	① A	A
		②単元のまとまりを見通した授業づくり	② A	
		③授業改善につながる各部研究の推進	③ A	
		④ I C T の効果的活用と校内研修の実施	④ B	
○児童生徒が役割を担う体験活動の工夫、思いや考えを伝え合う話し合い活動の工夫、体育的行事や大会、作品応募への積極的な参加を行った。キャリアパスポートの活用をとおして、児童生徒の内面の評価をしていく。 ○出向相談等による各種学校への相談支援、校内相談支援、小中学校コーディネーターへの情報発信等によりセンター的機能の強化を図った。相談等の件数増加に伴う対応時間の確保、人材確保・育成が必要である。	安心安全な教育環境と豊かな心、健やかな体の育成	⑤安心安全な教育環境の徹底と事故等の未然防止	⑤ B	B
		⑥自己有用感、自己肯定感を高める活動の工夫	⑥ B	
		⑦道徳教育の充実	⑦ B	
		⑧文化的・体育的活動の充実	⑧ B	
○学校運営協議会での熟議により、地域との相互理解を推進した。教育課程と結び付け、地域人材を活用した取組を実践していく。 ○企画の工夫による学校公開の実施、ホームページでの積極的情報発信を行った。取組や情報発信を工夫し引き続き、本校への理解推進に努める。	地域とともにある学校づくりの推進	⑨センター的機能の強化	⑨ B	B
		⑩校内支援体制の充実	⑩ A	
		⑪学校運営協議会を核とした地域と連携・協働した取組の推進	⑪ B	
		⑫学校ホームページや学校公開等による積極的な情報発信	⑫ B	
○全体研修やボトムアップ研修の実施によりコンプライアンス意識の高揚が図れた。当事者意識を高める研修を工夫していく。 ○退勤時間や定時退勤日の遵守を呼びかけ、時間外勤務の縮減に取り組んだ。業務改善と各自のタイムマネジメントの見直しを継続する。	重点項目・重点目標達成のための学校体制の推進	⑬コンプライアンス意識の醸成	⑬ B	B
		⑭専門性の向上	⑭ B	
		⑮働き方改革の推進	⑮ B	
		⑯鹿特コミュニティ・スクールの推進と認知度の向上	⑯ B	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価		成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	安全安心な教育環境 の徹底	・事故やけがの未然防止に向けた安全点検の強化と迅速な報告・対応の徹底	⑤	B	B	○安全点検による破損や危険箇所の早期発見、事務室と連携した修繕・物品補充による環境整備の徹底、報告様式改正による迅速な報告の徹底 ●学校施設老朽化による修繕、見通しをもった物品購入及び補充 ◇小規模修繕は職員が対応する。物品の不足数の把握
		・保健・安全指導の充実と医療的ケアの安全な実施	⑤	B		○傷病発生時対応マニュアルの見直し、泊を伴う行事や災害時における医療的ケアの指示書・マニュアル作成による安全な保健・安全指導の実施
		・食に関する指導の充実と食物アレルギーへの適切な対応	⑤	B		●傷病発生時の対応や報告方法に係る研修の検討、医療的ケア担当者の研修実施時期の検討 ◇傷病発生時の対応方法の研修の実施、医療的ケア担当者の研修を年度当初と夏季休業中に実施
		・多様な訓練等の実施と危機管理体制や各マニュアルの見直し	⑤	B		○ブログの活用による情報発信や給食試食会による食に関する理解推進 ●給食試食会の保護者参加率のアップ ◇学校公開に合わせるなど給食試食会の実施日の再検討
		・いじめの未然防止、早期発見・早期対応に向けた体制の強化	⑤	A		○様々なパターンや時間帯での訓練の実施、災害時引き渡しのフローチャート作成とマニュアルの見直し
		・長期欠席児童生徒や生徒指導に係る課題への迅速・組織的な対応	⑤	B		●防災教育に係る体験活動や防災備品が少ない。 ◇防災教育に係る体験的活動の工夫、防災備品のバリエーションを増やす。
		・通学指導マニュアル、運行マニュアルの徹底による安全な通学指導の強化	⑤	B		○いじめ早期発見チェックリストの活用と情報共有による共通理解と早期対応、いじめ防止基本方針の見直し ○生徒指導の基本体制図、スペシャルサポートプログラム学習体制図の作成及び周知による支援体制の整備
						●各部との情報共有、長期欠席児童生徒への支援 ◇職員配置の見直し、長期欠席児童生徒組織的な対応 ○登校時の入校証の見直しや時刻表の表記の改善によるスムーズなスクールバス運行と連携 ●号車担当者間の対応の共通理解、複数号車で同時多発にトラブルが発生した際の対応 ◇係だけでなく全職員への運行ルール周知徹底、運行マニュアルによる運行会社との連携強化

		・ヒヤリハット事例の情報共有による事故等の未然防止	⑤	B		○ヒヤリハット事例の情報共有による重大事故防止 ●自分事としてとらえる意識の向上 ◇情報共有の工夫
		・学校徴収金や諸帳簿等の適正な処理や取り扱いとダブルチェックによる誤配付防止	⑤	B		○学校徴収金や諸帳簿の定期的確認による適正管理 ●3学期など短い期間の会計処理、誤配付防止 ◇会計処理やチェック機能の再検討
		・児童生徒の人権に配慮した指導の徹底	⑤	B		○研修会の実施や資料回覧等による意識の向上 ●児童生徒の人権が尊重される環境づくり ◇アンケート結果をもとに、人権感覚を磨く研修や自分事としてとらえられるような研修の工夫
	一人一人がよさを発揮できる活動の推進	・役に立つ喜び（自己有用感）、できるという喜び（自己肯定感）が得られる学級活動、児童・生徒会活動、学校行事、部活動や放課後等の設定	⑥	A	B	○文化祭等での児童生徒の企画・運営や係活動等による自己有用感の高揚 ○作品展への出展や特体連スポーツ競技会や駅伝等への積極的参加、集会活動での発表や表彰による自己肯定感の高揚 ●児童生徒の振り返りと評価方法 ◇キャリアパスポートの活用の工夫 ○各部の実態や重点目標を踏まえた道徳の年間指導計画の見直し ●授業づくりや指導の工夫 ◇授業におけるねらいの明確化や話し合いの工夫、研修の実施
		・キャリアパスポートの作成・活用	⑥	B		
		・自分の思いや考えをもつ、友達の考えに触れる、思いを伝え合う場の工夫	⑦	B		
		・道徳の年間指導計画の見直し	⑦	B		
		・作品展、作品応募等への積極的参加、体育及び体育的行事の工夫による体力の向上	⑧	B		
	教職員の育成及び指導・監督	・育成を目指す資質・能力（三つの柱）を踏まえた個別の指導計画の作成	①	B	A	○三つの柱を踏まえた個別の指導計画の作成 ○単元デザインシートによる単元構想と深い学びにつながる授業づくり、授業改善の推進 ●内容のまとまりを意識した単元構想、各教科等の見方・考え方を働かせる授業づくり ◇各部研修や講師を招聘した研修による専門性の向上 ○自立活動の「鹿特版流れ図」の作成と研修会の実施 ●個々の課題に応じた自立活動の指導の充実 ◇年間を通した希望研修の実施
		・単元デザインシートの活用による単元構想	②	A		
		・管理職も含めた各部研究体制と授業改善につながる協議の工夫	③	A		
		・講師を招聘した研修会の実施、ICTミニ研修等の校内研修の実施	④	A		
		・各部・分掌部等による校内研修の実施	⑭	B		
対外活動	地域とともにある学校づくりの推進と情報発信	・保育園、幼稚園、小・中学校、高等学校への支援の充実	⑨	B	B	○出向相談、来校相談、体験学習による各校への相談支援、研修会や各校コーディネーターへの情報発信による支援の充実 ●高等学校のニーズの把握、体験学習の増加に伴う対応時間の確保と調整 ◇新規事業も含めた校内人材確保・人材育成
		・関係機関も含めた校内支援体制、支援会議の実施	⑩	A		

						○医療相談マニュアル、生徒指導部と連携した対応マニュアルの作成による支援の流れの構築、関係機関と連携した支援会議による組織的対応の充実 ●校内支援会議をより気軽に簡潔に実施するための周知 ◇校内支援会議、関係機関との連携会議の事例やメリットを報告し、会議がより活用されるようにする。
		・教育課程と結び付けた地域の人材・資源を活用した取組の実施	⑪	B		○学校運営協議会での熟議による地域の人材・資源を活用した取組の実施、地域と連携したP T A活動の実施
		・週1回のRokustagram更新と学校公開の内容の工夫	⑫	B	B	●教育課程との関連、学校運営協議会に係る職員の理解推進
		・コミ・スクだよりの発行やコミ・スクコーナーの設置	⑬	B		◇年間指導計画への位置付け、職員向けの情報発信
						○Rokustagram、学校公開の工夫、新聞掲載による積極的な情報発信、学校HPのレイアウトの工夫
						●学校HPでのタイムリーな情報発信
						◇更新スケジュールを立てる等の計画的な情報発信
コンプライアンス確保	風通しのよい職場環境づくりと不祥事ゼロ	・あいさつ・言葉かけ・話し合いの重視による職場環境づくり	⑭	B	B	○全体研修や各部研修の実施、「意識していこうキャンペーン」の実施、不祥事防止に向けた校内ルール周知による意識の醸成
		・コンプライアンス研修の工夫と「意識していこうキャンペーン」の実施	⑮	B		●当事者意識の高揚
						◇自分事としてとらえられるような効果的な研修の工夫
働き方改革	時間外勤務の縮減	・効率化を図るためのタイムマネジメントの実践による退勤時刻・定時退勤日の遵守（時間外勤務45時間以内）	⑯	B	B	○退勤時刻・定時退勤日の遵守
		・校務支援システム導入準備の推進	⑰	B		●業務の平準化、多忙感の軽減
						◇校務分掌組織の見直しと業務改善、各自のタイムマネジメントの見直し
						○校務支援システム導入に係る研修会の実施
						●進捗状況のチェック漏れ
						◇より効果的・効率的な活用の見直し
I C T活用	教員のスキルアップと授業における児童生徒の活用の推進	・I C Tミニ研修の実施	⑱	B	B	○I C Tミニ研修によるスキルアップ、研修会のオンデマンド配信による活用の推進
						●アプリや最新機能の使い方等の情報発信、経年劣化による機器の動作不良
						◇アップデートに合わせた研修会やポータルサイトを利用した情報発信の工夫、計画的なI C T機器の更新や入替え

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない